



Fraser Island Fact Sheet

フレーザー島は世界で一番大きな砂の島です。長さはおよそ123キロを超え、幅が一番広いところで22キロほどです。一番高い砂丘は海拔244mですが、平均すると100mから200mくらいです。また、地下の砂の深さは海面下100mくらいに達しているところもあります。砂の大部分は、シリカと呼ばれる石英の粒で出来ており、ルータイルやジルコンといったその他の鉱物が占める割合はわずか2%以下です。

世界遺産(せかいいさん)とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて、**世界遺産リスト**に登録された世界中の文化的、自然的に顕著で普遍的な価値のある人類の共通のたからもので、大切に守られ次世代に伝えていかなくてはならないものです。

フレーザー島は、その自然の価値が評価され1992年にユネスコによって世界遺産に登録されました。公式の引用文によれば、“長さ250キロ以上もの砂浜、手付かずの海岸と40キロ以上続くカラーサンドの崖、そして壮大な砂丘の盛り上がり、波の打ち寄せる海岸、やせた砂の上に生育した驚くほど高い降雨林、透き通った”白く見える湖“とにごって”黒く見える湖“を含む砂のくぼみに出来た湖、バンクシアの森、ヒース地帯、凶案のような湿地帯や雨風から守られたマングローブ地帯などが見ごたえのたるモザイク模様のように存在している”と称し、フレーザー島の“類まれな自然の美しさ”を賞賛しています。

フレーザー島は、地質学上の推移や生態学的進化という点において世界的に重要な実例となっています。たとえば、複雑な砂丘の形成が現在も続いていること、島の湖がその数、や生物多様性、年齢から見てもきわめて特異であり、ダイナミックな発生の段階を示す証拠となっていること、海から受ける影響や沿岸の砂丘地帯の乏しい土壌といった環境に適応しながら発達してきたという類まれな生態系の例としても、すべてがユニークな例となっています。

グレートサンディー海峡

本土とフレーザー島の間に挟まれたグレートサンディー海峡は、ラムサール条約によって世界の重要な湿地のひとつとして登録されています。模様のように広がった湿地帯や、マングローブの群生、そして海底に繁茂した海藻などには、4万もの渡り鳥をはじめ、類まれで傷つきやすい、あるいは絶滅危惧種であるジュゴン、カメ、チョウ(Illidge's ant-blue butterflies)やシギの一種(eastern curlews)などが生息しています。

キングフィッシャーベイリゾート

リゾートの所在地は、フレーザー島の西海岸の65ヘクタールの土地です。ここにはバンクシアの森や、ペーパーツリーなどのフトモモ科の植物の生育する湿地、淡水湖やヒースの花が生い茂る野原などがあります。かつてアボリジニが住んでいたことを示す貝塚跡や表面が削り取られた木などが残っており、文化遺産ウォークといったリゾートアクティビティとしてご滞在のお客様にも実際にご覧いただいています。また、ブッシュタッカー(野生の食材)や薬などとしてアボリジニに使われていた様々な植物についてもご紹介しています。



フレーザー島の形成

フレーザー島と近郊のカルーラ (Cooloola) 地域一帯では、移動を続けている砂によってユニークな地質学上の歴史が見え隠れしています。この砂丘は、世界で最も長く、しかも最も完全な時の流れを残した沿岸砂丘システムです。

フレーザー島を形成している多くの砂はオーストラリアのはるか南東部から来たものだとされていますが、その一部は何と南極大陸から何万年も何千キロもかけてたどり着いたもので、この長い砂の旅はオーストラリアと南極大陸が陸続きだった頃に発しています。

およそ7億年前、南極大陸には現在のヒマラヤ山脈に対抗するような山脈がありました。これらの山脈は侵食され、その砂は潮流に乗って大陸棚に堆積されました。それが現在フレーザー島が横たわっている場所です。現在も島の東側の海岸では砂丘が活発に動いています。南東から吹き渡る風によって砂が巻き上がり砂丘が形成され、その砂はまた島を渡り森や植物群を覆い埋めていきます。年間のこの砂丘の動く率は、風の強さや砂に含まれる湿気の量、また植物の繁茂の状態などによっても様々です。

ヨーロッパ人の歴史

フレーザー島が最初に発見されたのは、1770年キャプテン・ジェームス・クックがオーストラリアの東海岸を旅している間のことでした。クックは、この島を本土とつながっていると思い、間違えて「グレート・サンディー・ペニンシュラ (大きな砂の半島)」と名づけました。1799年には、「Norfolk (ノーフォーク号)」に乗ってマシュー・フリンダースがハービーベイの一部を探検したときに、半島といわれていたのが実際は島であったことを発見しました。1836年にキャプテン・ジェームス・フレーザーは「Stirling Castle (ステアリング・キャッスル号)」というブリッグ (横帆の2本マストの船) にのってやってきて、スウェインズ・リーフ (Swain's Reef) というフレーザー島の北のリーフで難破しました。その時の生存者は、救命ボートで南に下り、やがてフレーザー島にたどり着きました。この時の生存者で本土に生還したのは、イライザ・フレーザー (フレーザー船長の妻) 一人でした。島はその彼女の名前から「フレーザー島」と名づけられました。

アボリジニの歴史

フレーザー島の先住民、バッチュラ族は、北はブルム川 (Burrum River) から南のカルーラ・ナショナルパーク (Cooloola National Park) そして西はボーブル山 (Mount Bauple) までの広い範囲を部族の土地としていました。バッチュラ族にとってフレーザー島はガリまたはグリ (K'gari と書いて Gurrie と発音) と呼び、「楽園」を意味します。バッチュラ族は、6つの小さなグループに分かれており、定住人口はおおよそ700人ほどでした。ところが冬場になるとテイラー (アジに似た魚) やボラなどの魚を求めて他の部族もフレーザー島に集まってきて、人口は2000人ほどに膨れ上がりました。

現在はほんの一握りの子孫が残っているだけです。アボリジニの歴史はフレーザー島の重要な部分で、現在はバッチュラ族の文化につながる場所を探し、確認し、管理するという作業を必死で行っています。これによって次の世代の子供達もバッチュラ族の生活習慣を学び、理解しそして尊重することができるからです。



フレーザー島の湖

フレーザー島は、周囲を塩水に囲まれ、砂だけで形成されています。おそらく100を超える淡水湖と数え切れないほどの小川が流れています。

観光客に人気が高いのはパーチドレイクと呼ばれる湖で、マッケンジー湖(Lake McKenzie)やピラビーン湖(Lake Birrabeen)がこれにあたります。透明なブルーの水が白い砂浜とユーカリの林に囲まれていて大変美しい湖です。これらの湖は、砂丘の中に出来たくぼみに腐葉土をいっぱい含んだ砂、あるいは有機物と砂が固まって積み重なってできた“コーヒーロック”と呼ばれる水はけの悪い層を作り、そこに雨水がたまって出来た湖です。よって、この湖の水位は雨量によって左右されています。湖の水は、わずかばかりの量がコーヒーロックの層から染み出したり、蒸発したりしてゆっくりと減少しています。

湖は淡水カメの生息地になっており、ベイスン湖(Basin Lake)では Krefft's River Turtle と呼ばれる淡水カメが沿岸でえさを食べている様子を頻繁に見かけます。湖はサティナー(satinay)、ブラックバット(blackbutt)、スムースバークアップル(smooth-barked apple)やスクリプリーガム(scribbly gum)といった高い木々の森で囲まれています。

ウォビー湖(Lake Wabby)はその一方を、ハマーストーン・サンドブロー(Hammerstone Sand Blow)という大きな砂丘に、反対側はユーカリの森に囲まれています。この湖はバラージレイクという堰止湖のいい例で、動いている砂丘の砂によって小川の水の流れが堰き止められて出来た湖です。エメラルド色をした湖で13種の魚の生息地になっています。湖と砂丘を見渡すことができるウォビー展望台からと、東側の海岸から歩いて湖まで行くことができます。

この他、ウィンドーレイクというタイプの湖がありますが、これは砂の表面が風雨によって削られくぼみが出来、それが地下水面より低いところまで達したもので、地下水面が窓のように覗いて見えることからウィンドーレイクという名前がついており、オーシャン湖(Ocean Lake)がもっとも行きやすく、よく知られています。ウィンドーレイクは、水生生物のよりどころになっており、周辺の植生とあいまってパーチドレイクより多くの水鳥の生息地となっています。これは、パーチドレイクに比べて湖の栄養分や微量元素量がわずかに高く、海に近いことによるとされています。

小川

フレーザー島の澄み切った淡水の小川は、砂の川床を音もなく静かに流れています。これらの水は、シドニー湾のおよそ30倍のものを蓄えていると言われる地下の巨大な帯水層から湧き出てくるものです。小川の水温は年間を通じて18度程度に保たれています。無数の小川がフレーザー島の両海岸に流れ出ていますが、その中でもより大きく、より美しいもののひとつがワングールバククリーク(Wanggoolba Creek)と呼ばれる小川です。この小川は、島の中央部にあるセントラルステーション(Central Station)近くの降雨林から湧き出て、キングフィッシャーベイリゾートの南にあたる島の西側の海岸に流れ出ています。



林業の歴史

木材の伐採がフレーザー島で始まったのは1863年”Yankee Jack”Piggott と呼ばれた人によってでした。その後、島が世界遺産への登録候補に決まった1991年12月まで続いていました。

木こり達によって切り出された最初の木は、カウリパイン (Kauri pine)、フープパイン (hoop pine)、サイプレスパイン (cypress pine) などでした。

1900年代の初めにはタローウッド (tallowood)、ブラックバット (blackbutt)、ブラッシュボックス (brush box) などの硬材になる木々が主に伐採されました。1925年にサティナー (satinay) が海水の虫くいに対しても丈夫であることが発見されて以来、島の主要木材となり世界中の海まわりの建築資材として多く使われました。サティナー (Satinays) は、パイルバレー (Pile Valley) あたりで集中的に伐採され、スエズ運河の建設や第二次世界大戦後のロンドンドックの改修に使われました。近場では、対岸のハービーベイのユランガン棧橋 (Urangan Pier) の建設にも使われています。

セントラルステーション (Central Station) は、かつては木材伐採のキャンプとして使われていたところですが、現在はクィーンズランド州公園・野生動物保護課 (QPWS) のレンジャーの情報センターとなっています。古い伐採業者が住んでいた家のいくつかは今もそのまま残されています。島の中央にある降雨林の中を抜けて西側の海岸まで音もなく静かに流れるワングールバ・クリーク (Wanggoolba Creek) まで遊歩道が続いています。キングファー (king fern) という巨大なシダのある小川までは、木道を歩いて簡単に近くまで行くことができます。ここでは、カウリパイン、ブラッシュボックス、サティナー、ピカビーンパームといったフレーザー島の様々な植物を間近で見ることができます。

ストーンツール・サンドブロー (Stonetool Sand blow) は、風によって砂が巻き上がり、森を覆い、活発にその動きを続けて砂の堆積によって砂丘を作っています。ここでは、砂の絶え間ない動きによって古い森が再び姿を現しているところが見えます。この砂丘の名前は、アボリジによって使われた石器がこの砂丘で発見されたことから、ストーンツール・サンドブロー (石器砂丘) という名前がつけられています。

セブンティファイブ・マイルビーチ (Seventy-Five Mile Beach) は、もっとも素晴らしい海岸道路でここではすべての国内の道路法規が適用されます。制限速度は時速80キロで小型機の離着陸時には道を譲ることが義務付けられています。ここはまた猛禽類や海鳥を観察するにも絶好の場所です。デインゴも気をつけて探してみてください。海釣りにも絶好の場所ですが、岸から返す引き波が強いことと大型のサメがいて危険なため、水泳には適していません。

イーライクリーク (Eli Creek) は、毎時およそ420万リットルの水が75マイルビーチに流れ出ています。これは、フレーザー島の東海岸において最大級の淡水の小川で、泳ぎを楽しむ観光客でにぎわっています。また、小川の脇の木道から砂丘の前方で砂の動きを食い止めている植物の例を見ることができます。



マヒノ難破船 (Maheno Shipwreck) は、1905年にスコットランドで豪華クルーズ船として作られ、シドニーとオークランド間を航海していました。マヒノは、最初のタービン汽船のひとつで、当時の最速船のひとつでした。1907年にはタスマニア海を横断する最速の記録を打ちたてています。(2日21時間)

第一次世界大戦中は、ヨーロッパにおける病院船の役割を果たし、地中海や紅海でも活躍しました。戦後、マヒノは再度クルーズ船として使われました。1935年7月8日に、役割を終えたマヒノはスクラップのために日本に向けて牽引されていく途中でサイクロン(インド洋に発生する熱帯低気圧)の打撃を受け、浜に打ち上げられました。

浜に打ち上げられた難破船は第二次世界大戦中には空軍の訓練標的として、またシンガポール湾襲撃前に吸着爆薬の装着の練習するZフォース特別部隊によって使用されました。

カラーサンド (Coloured Sands)

フレーザー島のカラーサンドは、72種類の違った色(ほとんどは赤と黄色系)の砂で出来ており、イーライクリークより北の一帯で見られます。カラーサンドは、砂のそれぞれの粒の表面を覆っている酸化物がろ過されることによって生じ、色の縞模様を作り出します。

岩層露出部分 (3箇所の岩場)

砂だけで出来たフレーザー島ですが、島の東側には3箇所(インディアンヘッド、ミドルロック、ワディーポイント)のみに流紋岩が見られます。これは太古の火山活動によって生じた火成岩で、J型の反対(ゼータカーブ)の形に砂が堆積し、やがて長い海岸を形成していく上でこの岩層露出部分が大きな影響を与えています。この様子は上空、もしくはこの3つの岩場のどれかの頂上から見るとよくお分かりいただけます。

インディアンヘッド (Indian Head) は、7.5マイルビーチの中で最も目立ったランドマークになっています。高さ60メートルの切り立った岩の岬はまるでクジラが横たわっているようで、素晴らしい展望台になっています。崖の上では猛禽類が休んでいる様子がしばしば見られ、眼下の透き通った海にはサメやエイが泳いでいるのが見えます。

ミドルロック (Middle Rocks) には島一大きなシャンペンプール(Champagne Pool)と呼ばれるロックプールがあり、ここはまた養魚池とも呼ばれています。というのは、ここはまるで自然の生簀のようで、アボリジにはここで魚を捕まえていました。満潮時には波に流されてしまうロックプールですが、その名の通り干潮時には泡のたつ海水で満たされ最高のスイミングプールになっています。

ワディーポイント (Waddy Point) は、3箇所の岩場の中で一番北にある岩場です。



植物

フレーザー島には、砂地に生育するヒース類から亜熱帯降雨林までと様々な植生があります。これらの植物は砂の粒の薄いコーティングの中から、あるいは林の下にできるわずかな腐葉土から栄養分を見つけて成長します。

沿岸のヒース類 (Coastal Heaths) は、フレーザー島の東側の強い風、塩分を含んだ水しぶき、砂ふぶき、そして限られた淡水といった過酷な気象条件の中で育ちます。これらの植物は、砂の動きを固定し、栄養物の循環を始めるのに役立っています。代表的なものとしては、スピニフェックス (beach spinifex) ピッグフェース (angula pigface) シーオーク (horsetail she-oak) といったものがあります。

ユーカリの林 (Eucalypt forests) はフレーザー島のほとんどの場所で見られます。島の比較的乾燥している地帯は、ほとんどスクリブリーガムのオープンフォレスト (見通しのいい森) となっています。スクリブリーガムは、落書きのように見えるひっかき傷がついた淡い色の樹皮に覆われています。これは、樹液を求めて樹皮の下に狭いトンネルを作り動き回った蛾の幼虫によるもので、毎年表面の樹皮がはがれ落ちてその軌跡が落書きのように表面に残った状態になっています。島の湿気の多い場所には、背の高いブラックバットと低灌木が二層になっている林が見られます。サティネーとブラッシュボックスは、降雨林との境に植生の転換林として集中して生育しています。この林の下のほうには、降雨林で生育する植物がしばしば混在しています。

降雨林 (Rainforests) は、海拔200メートル以上の砂丘の上に生育していますが、これは世界で一番高い砂丘にある降雨林です。亜熱帯雨林は、島の中心部の雨の多い一帯で見られます。ここは、地面にはわずかな光しか届かないうっそうとした葉っぱの天蓋で覆われています。これによって木々は太陽の光を求めて高くまっすぐに伸びます。その結果、伐採に適した良質な木材が出来るのです。カウリパインやピカビーンパームなどがこの降雨林でよく見られる植物です。

ワラムヒースランド (Wallum heath lands) は、ワラムバンクシア (wallum banksia) が圧倒的な数を占め、特徴としてスゲ類、グラスツリー (grass tree) など混じった植生で、春になると満開になる色鮮やかなワイルドフラワーが有名です。ヒースランドは、比較的乾いた尾根や高原などでも見られます。

動物

フレーザー島は、数多くの動物が生息していますが、そのほとんどが夜行性であるためにほとんど見ることが出来ません。

島の哺乳動物で一番見やすいのが、ディンゴです。フレーザー島全土でおよそ150から200頭ぐらいがいると言われています。見かけは普通の犬のようですが、アジアオオカミに寄り近いとされています。ディンゴは毎年8月に4から6匹の子供を生みます。フレーザー島のディンゴは遺伝的にオーストラリアの中でもっとも純血なものです。



フレーザー島にはその他47種の哺乳動物がいます。その中には、ワラビーの一種(Swamp Wallaby) ポッサムの一種(Small Eared Mountain Possum)やフクロモモンガ(Sugar Glider)も含まれます。

354種以上の野鳥もフレーザー島では確認されています。島は多様な生態系を持ち、これによって多様な餌種や、巣づくりや子育てのための場所を提供しています。フレーザー島は、渡り鳥の休憩場所や繁殖場所にもなっており、遠くはシベリアからも渡ってきます。

フレーザー島は、79種の爬虫類の住処にもなっています。この中には19種のヘビ類も含まれます。もっともよく見られるものは、サンドモニター(Sand Monitor)やレースモニター(Lce Monitor)といったトカゲ類です。これらの大きなトカゲ類は、島のピクニック場所でよく見かけられます。

フレーザー島の海では、イルカ、ジュゴン、海ガメ、エイ、そして7月から11月には、毎年回遊してくるザトウクジラなども見られます。

珍しいカエル類として、たとえばアシッド・フロッグ(酸性カエル)などがいます。このカエルは違った環境で生き残るように順応したもので、沼地などで見たり聞いたりすることができます。

(Japanese version_updated August, 2008)